

# 児童生徒の学びを深める 「ピア・サポート活動」の プログラムの開発に関する調査研究 〈中間報告〉



平成26年3月

総合教育センター 指導相談担当



埼玉県立総合教育センター  
Saitama Prefectural Education Center

## ○ 目 次

○ 目次	1
○ 概要	2
1 研究の目的	3
2 研究の方法	6
3 「学び」の風土を醸成するピア・サポート	8
4 実践の概要について	14
(1) 実践例 1 小学校「特別活動」（保健委員会の活発な活動）	15
(2) 実践例 2 中学校「特別活動」（ライフスキル学習の全校的な取組）	17
(3) 実践例 3 高等学校「特別活動」（生徒主体の生徒会活動）	19
(4) 実践例 4 小学校「生活科」（家庭生活の中で自分のできること）	21
5 研究の成果と今後の課題	23
6 参考・引用文献等	23
7 研究協力委員等	24

## ○ 概 要

教員が、学習指導における生徒指導の意味を十分理解し、教育活動を行うことは、児童生徒の学習不適應の解消に資するとともに、様々な問題行動の解決につながる。

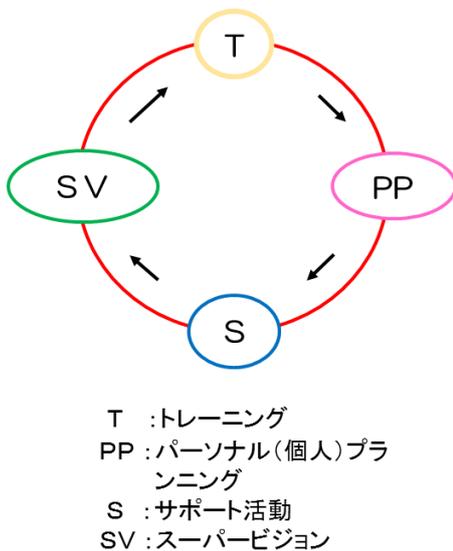
本研究では、「ピア・サポート活動」を「学校全体で取り組む教育活動の一つのモデルである」と捉えた。

埼玉県教育行政の最重要課題である「学力向上」の実現のため、教科・特別活動等において「ピア・サポート活動」における「マネジメントする力」と「指導用モデル」に重点をおいて、指導用プログラムの開発を目標としている。

平成25年度の調査研究では、「ピア・サポート活動」の「円環的過程」のマネジメント手法を取り入れ、「自ら学ぶことのできる『学びの集団』」を育てる指導モデルを考案した。本報告書は、本年度の研究の内容及びその成果と課題について報告するものである。

研究2年目である次年度には、「ピア・サポート活動」モデル及び「円環的過程」について検証及び改善し、児童生徒の学びを深める「ピア・サポート活動」の指導用プログラムに係る多くの事例を報告する予定である。

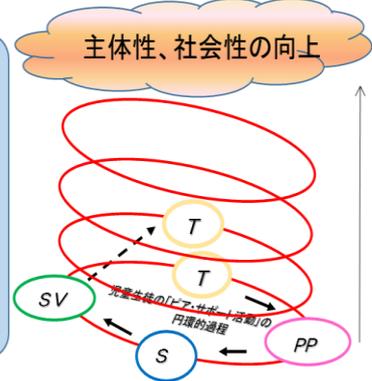
図表1 児童生徒の「ピア・サポート活動」の円環的過程



図表4 「ピア・サポート活動」の一単位をスパイラルに発展させる

教育資源を掘り起こして、  
 ●児童生徒の実態をアセスメントする。  
 ●サポート活動(S)に必要なトレーニングを計画する。

「トレーニング(T)」 ←  
 ↓  
 「パーソナルプランニング(PP)」  
 ↓  
 「サポート活動(S)」  
 ↓  
 「スーパービジョン(SV)」 →  
 の諸要素を持った円環的過程



児童生徒の主体性や社会性を育み、「学び」の風土を醸成し、学習不適應の予防や解消に資する。

# 1 研究の目的

## (1) 研究主題設定

今日の様々な生徒指導上の問題行動を引き起こす要因の一つに、日々の授業において、児童生徒が「分からない」「できない」「学ぶ意義が実感できない」などの学習の不適応が挙げられる。生徒指導提要では、学習の不適応と生徒指導との関係において、児童生徒同士で学習を助け合うグループ活動を援助することの必要性が述べられている。

- ①特定の教科について遅進を補うための本来の意味の補習やその指導について配慮すること、
- ②児童生徒同士で学習を助け合うグループ活動を援助すること、
- ③当該児童生徒にとって比較的得意とする方面を伸ばすような方法を講ずること…（以下略）

（文部科学省「生徒指導提要」（平成22年3月）7ページより）

また、生徒指導提要に示されている「ピア・サポート活動」については、社会的スキルを育て、互いに支え合う関係を作るのに有効と考えられ、児童生徒同士で学習を助け合うグループ活動の援助に活用できるものと思われる。

\*教育相談でも活用できる新たな手法等

「ピア・サポート活動」

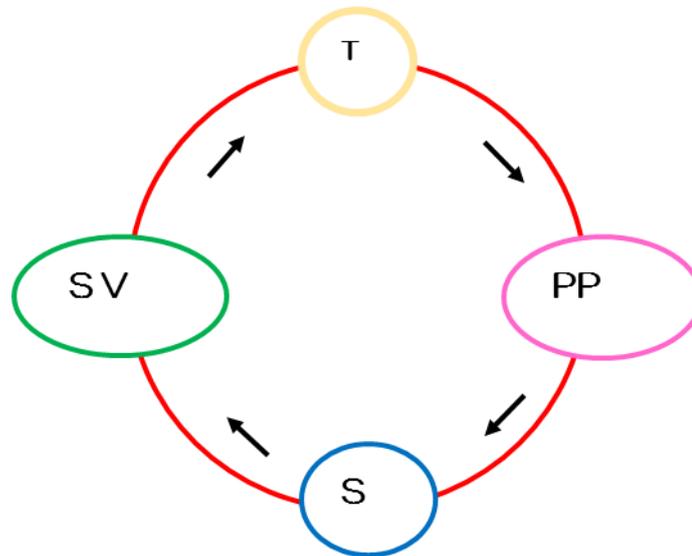
「ピア」とは児童生徒「同士」という意味です。児童生徒の社会的スキルを段階的に育て、児童生徒同士が互いに支えあう関係を作るためのプログラムです。「ウォーミングアップ」「主活動」「振り返り」という流れを一単位として、段階的に積み重ねます。

（文部科学省「生徒指導提要」（平成22年3月）109ページより）

そこで、この「ピア・サポート活動」を活用し、助け合う集団を育成することによって、児童生徒の学習不適応の解消を図ろうとするものである。

この「ピア・サポート活動」の効果をより発揮させるために、「トレーニング（T）」「パーソナル（個人）プランニング（PP）」「サポート活動（S）」「スーパービジョン（SV）」で構成された円環的な児童生徒の体験過程（以下、「円環的過程」という。図表1）を日常の教育活動へ意図的に設定していく。この円環的過程を有した「ピア・サポート活動」を、教科・特別活動等で機能させることによって、日常の教育活動において進める潜在的カリキュラムではなく、顕在的なカリキュラムとして

図表1 児童生徒の「ピア・サポート活動」の円環的過程



T :トレーニング  
PP :パーソナル(個人)プランニング  
S :サポート活動  
SV :スーパービジョン

年間指導計画に位置付け、マネジメントしようとするものである。計画的、継続的な取組を進めることによって、児童生徒の社会的スキルが向上し、良好な人間関係を通して、児童生徒相互が学び合い、高め合う雰囲気を作り出すと考えられる。

したがって、本研究は、「ピア・サポート活動」における「サポート活動（S）」（図表2）の内容を探究することではなく、学校が抱える課題解決のための教育実践を「ピア・サポート活動」にみられる児童生徒の体験過程から検討し、学力向上へ連動するマネジメントモデルを構築しようとするものである。

このモデルは、今日の「教員の年齢構成の不均衡」によって困難となっている、指導技術を含んだ教員文化の伝承にも資するとともに、今、学校に求められている「協同的な学び」の推進にもつながるものと考えられる。また、本研究では、「ピア・サポート活動」を生かし、「円環的過程」のマネジメントの手法を取り入れて、児童生徒の主体的かつ支え合う学びを促す授業を行うことが、児童生徒の学習の不適応の解消及び学力向上に結び付くとともに、今日的な様々な教育上の問題解決につながると考え、本研究主題を設定した。

《ピア・サポートマネジメントモデルの構築》

- ・ピア・サポート活動による社会的スキルの向上→協働的な学びに必要なスキルの向上
- ・児童生徒の学習不適応の解消

図表2 サポート活動の分類

カテゴリー	主なサポート活動	支援対象:ピア
仲間づくり	だれもが学校や学級に居場所を持てるようにサポートすること	全校生徒
お世話活動	学校行事を円滑に進めるためのサポート活動	全校生徒
グループリーダー	仲間を大切にしながらグループの運営推進	同学年の生徒
指導・助言	下級生に向けた先輩としてのアドバイス	下級生
学習支援	仲間同士での教え合い、学び合い	主に同級生
相談活動	スーパービジョンを受けながら問題を抱える仲間の相談にのる活動	相談を依頼した生徒

(\* 小林澄子 懸川武史 『研究報告書』第205集 群馬県総合教育センター 2003)

## (2) 具体的な研究目標

〈研究1年次〉

- 「ピア・サポート活動」に関する先行研究をもとに、教育活動のマネジメントの視点から理論を整理する。
- 調査研究協力委員の実践例を「ピア・サポート活動」の観点から分析する。

〈研究2年次〉

- 教科学習において、学びの観点を取り入れた「ピア・サポート活動」を捉え直す。
- 「ピア・サポート活動」を活用した授業実践を行い、その効果を検証するとともに、モデルを作成する。

## 2 研究の方法

### (1) 研究の手順

本研究は、下記の手順に沿って進めることとした。

#### <平成25年度>

- 「ピア・サポート活動」に関する先行研究をもとに、学校における教育活動全般について見通した「ピア・サポート活動」を教員がマネジメント

できるようになるための理論を整理する。

- スーパーバイザーのアドバイスによる「ピア・サポート活動」の円環的過程のモデルを利用した、児童生徒の学びに資する指導プログラムの作成を進める。具体的には研究協力委員の授業実践を「ピア・サポート活動」の観点から分析する。

#### <平成26年度>

- 「ピア・サポート活動」の適用範囲を広げて、教科学習においてもピア・ラーニング（ピア・サポート活動を取り入れた「学び」）の観点からとらえ直す。

- 児童生徒の学びに資する指導プログラムの構築及び授業実践を行う。
- すべての教員に理解しやすいように、指導改善モデルを作成する。

### (2) 研究の流れ

ア 平成25年度

	内 容
5月29日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第1回研究協力委員会</li> <li>(1) 研究の概要及び今後の方向性について</li> <li>(2) 本研究における「ピア・サポート活動」の定義について</li> <li>(3) 研究の具体的な進め方及び分析・考察の在り方について (スーパーバイザーからの指導・助言)</li> </ul>
<6月>	…各委員による「ピア・サポート活動」実践の校内外での取組状況調査
7月10日(水)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第2回研究協力委員会</li> <li>(1) 本研究における「ピア・サポート活動」の定義について（第1回委員会の検討内容の深化）</li> <li>(2) 各委員による実践の検討について</li> </ul>
<8～9月>	…各委員による実践
10月4日(金)	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 第3回研究協力委員会</li> <li>(1) 各委員の実践報告と分析</li> <li>(2) スーパーバイザーからの指導・助言</li> <li>(3) 「児童生徒の学びを深める『ピア・サポート活動』の指導用プログラム」の概要について</li> </ul>
<10～11月>	…各委員による実践

12月6日(金)	<p>●第4回研究協力委員会</p> <p>(1)「児童生徒の学びを深める『ピア・サポート活動』の指導用プログラム」の概要について(第3回委員会の検討内容の深化)</p> <p>(2)中間報告書の作成について</p>
<12～2月> …中間報告書の作成	

イ 平成26年度

- ・「児童生徒の学びを深める『ピア・サポート活動』の指導用プログラムに関する調査研究」の内容の検討
- ・「児童生徒の学びを深める『ピア・サポート活動』の指導用プログラムに関する調査研究」の活用に関する検証方法の策定
- ・「児童生徒の学びを深める『ピア・サポート活動』の指導用プログラムに関する調査研究」を活用した検証授業の実施
- ・授業改善モデルの構築・授業実践
- ・検証授業の分析・考察
- ・分析・考察を踏まえた「児童生徒の学びを深める『ピア・サポート活動』の指導用プログラム」の修正及び改善
- ・「児童生徒の学びを深める『ピア・サポート活動』の指導用プログラム」の完成
- ・最終報告書の作成及び完成

(3) 研究を進める際の留意点

- ア 学校の現状を踏まえ、教員のニーズに十分応えることのできる研究となるよう留意する。
- イ 「児童生徒の学力の向上」に資するようにする。
- ウ 先行実践や先行研究を参考に研究を進め、工夫・改善を図りながら、小学校・中学校・高等学校の各校種の実情や特色を踏まえた研究とする。

### 3 「学び」の風土を醸成するピア・サポート

#### (1) 「ピア・サポート活動」について

##### ① 「ピア・サポート活動」と協同学習

学習指導における生徒指導の側面について、「生徒指導提要」第1章第2節の2において、下記のように述べている。

学習指導における生徒指導としては、次のような二つの側面が考えられます。一つは、各教科等における学習活動が成立するために、一人一人の児童生徒が落ち着いた雰囲気の下で学習に取り組めるよう、基本的な学習態度の在り方等についての指導を行うことです。もう一つは、各教科等の学習において、一人一人の児童生徒が、そのねらいの達成に向けて意欲的に学習に取り組めるよう、一人一人を生かした創意工夫ある指導を行うことです。

(文部科学省「生徒指導提要」(平成22年3月)5ページ)

学習指導における生徒指導というと、規律を確立する指導に意識が向きがちであったと言える。しかし、これからは、児童生徒にとって「分かる授業」を展開し、児童生徒が主体的かつ意欲的に学習に取り組めるよう創意工夫を図ることが一層必要になってくる。創意工夫の一例として、今日、学習者主体の「分かる授業」のための児童生徒らによる「協働」や「協同」をとりあげることが考えられる。

しかしながら、「協働」や「協同」が、自動的に一人一人の学びを保障するとは言えない。協同学習の基本的要素としては、協同学習の先駆的研究者ジョンソン兄弟の次の五要素が挙げられる。この五要素が満たされたときに協同的な学習が成立したといえるが、いずれ

#### 協同学習の五要素

- ① 肯定的な相互依存
- ② 促進的な相互交流
- ③ 個人の二つの責任 (1. 自分の学びに対する責任 2. グループの学びに対するグループ成員としての責任)
- ④ 集団作業スキルの促進
- ⑤ 活動のふり返りと改善

(ジョンソン, D. W. ・ ジョンソン, R. T. ・ スミス, K. A. (2001) 「学生参加型の大学授業：協同学習への実践ガイド」岡田一彦監訳 玉川大学出版部)

の要素も「学びに対する責任」「スキルの促進」「活動の振り返り」など、グループ成員一人一人の主体的な取組が不可欠となってくる。つまり、協同学習を成立させるためには、成員一人一人の資質、能力を高めていく必要がある。また、①「肯定的な相互依存」、②「促進的な相互交流」の要素から考えると、社会的スキルを身に付け、互いに支え合う関係を育む「ピア・サポート活動」は「協働的」、「協同的」な学びに資すると言えるのである。

## ②「ピア・サポート活動」における「サポート活動」

ピア・サポートの研究団体である日本ピア・サポート学会では、「ピア・サポートプログラム」を次のように定義している。

ピア・サポートプログラムとは、学校教育活動の一環として、教師の指導・援助の下に、子供たちが互いに思いやり、助け合い、支え合う人間関係を育むために行う学習活動であり、そのことがやがては思いやりのある学校風土の醸成につながることを目的とする。

(中野武房他編著「ピア・サポート実践ガイドブック」ほんの森出版 2008)

ピア・サポートの原点は、医療・福祉分野であり、例えば、キッチンドラムカー同士が、依存症を克服するために「支え合った」活動が教育の分野に取り入れられたという歴史がある。イギリスにおける、いじめ解決のための「ピア・カウンセリング」も、社会福祉的問題の解決法として行われている。このことから、教育実践場面でも、具体的に「助け合い」の姿が見える「サポート活動」が注目されるのは当然でもある。

しかし、その結果、「サポート活動」は「ピア・サポート活動」の一要素にすぎないにもかかわらず（図表1）、「ピア・サポート活動」そのものとして見られている、つまり「ピア・サポート活動＝サポート活動」と捉えられてしまっている現状があるようである。

## ③多様な「サポート活動」

サポート活動が多様である例として、懸川（2001）や小林（2002）は、サポート活動のカテゴリーを「活動内容」と「支援対象・ピア」によって、「仲間づくり」、「お世話活動」、「グループリーダー」、「指導・助言」、「学習支援」、「相談活動」に分類している。（図表2）

図表2 サポート活動の分類（再掲）

カテゴリー	主なサポート活動	支援対象:ピア
仲間づくり	だれもが学校や学級に居場所を持てるようにサポートすること	全校生徒
お世話活動	学校行事を円滑に進めるためのサポート活動	全校生徒
グループリーダー	仲間を大切にしたいグループの運営推進	同学年の生徒
指導・助言	下級生に向けた先輩としてのアドバイス	下級生
学習支援	仲間同士での教え合い、学び合い	主に同級生
相談活動	スーパービジョンを受けながら問題を抱える仲間の相談にのる活動	相談を依頼した生徒

(\*小林澄子 懸川武史 『研究報告書』第205集 群馬県総合教育センター 2003)

つまり、サポート活動の様態と対象は多様多様であり、ここで重要なことは、自分たちはどんなことができるのかを児童生徒自身が決定し、具体的な場面で実際に行動できる活動であるのかということである。その意味においては、学校における様々な活動が「サポート活動」となりうるのである。

## (2) 「ピア・サポート活動」をマネジメントする(ピア・サポートマネジメント)

### ① 「ピア・サポート活動」を学校全体の教育活動に生かす

懸川は、カナダのダンカン市におけるピア・サポートの活動を視察し、そこで見出したピア・サポートモデルを「児童生徒と教師が互いに成長できる学習モデル」と定義している。

同じく懸川は、児童生徒の円環的な体験過程として、「トレーニング (T)」「パーソナルプランニング (PP)」「サポート活動 (S)」「スーパービジョン (SV)」を提案している。児童生徒はこの円環的な体験過程を通して、相互コミュニケーションを体験し、自己理解に基づく相互理解を経て、共に成長することが期待される。また、円環的な体験過程を推進することによって、教師は「マネジメントする能力」「コーディネートする能力」「コミュニケーションする能力」が身に付くとされている。(懸川武史「ピア・サポートモデルによる学校マネジメントの実践」群馬大学教育実践研究第26号2009より)

つまり、ピア・サポートモデルの円環的な体験過程(以下「円環的過程」という。)に取り組むことによって、児童生徒と教師が互いに成長することができると期待される。

そこで本研究では、児童生徒の社会的スキルを段階的に育て、児童生徒が互いに支え合う関係をつくれるようにするために、円環的過程を、学校全体の教育活動の中に位置付け、「学習意欲の育成」や「学業へのつまづきへの教育相談的対応」(生徒指導提要「育てる(発達促進的・開発的)教育相談のポイント」より)を実現し、学習不適応の解消を図ろうとするものである。

また、このような円環的過程を教科や領域等で計画的、継続的に取り組むことによって、児童生徒の社会性の向上や教師の指導力向上に資するものと考えられる。

さらに教科における円環的過程の取組は、グループでの話し合い活動や協調学習の場において児童生徒の主体的な取組に寄与するものと考えられる。学習活動のプロセスにおいて他者の存在は重要である。自分の考えを聞いてくれる、うなずいてくれる、認めてくれるなど教師やクラスの仲間の温かい見守りは、児童生徒の学習意欲を促進し、学習不適応を予防し、学力向上に資することができると考えられる。

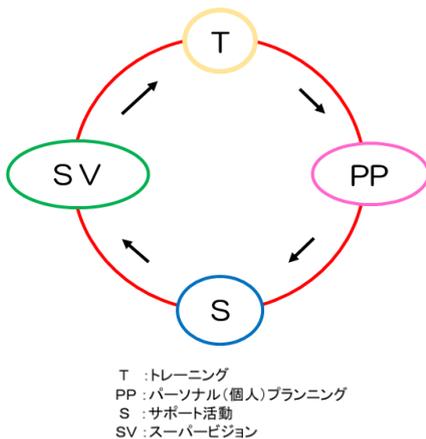
### ② 「学校風土の醸成」を図る

「ピア・サポート活動」モデルによって児童生徒が助け合い、支え合う人間関係が日々の教育活動の中で育まれる「学び」の風土を構築していくことが大切である。それがやがて、思いやりのある「学校風土の醸成」を図ることにつながる。教員がすでに日常の教育活動の中で取り組んでいることや実践してきていること(教育資源)を掘り起こして、事前に児童生徒の実態を「アセスメント」し、「サポート活動に必要なトレーニングを計画」する。そして、図表1のように児童生徒の「トレーニング(T)」→「パーソナルプランニ

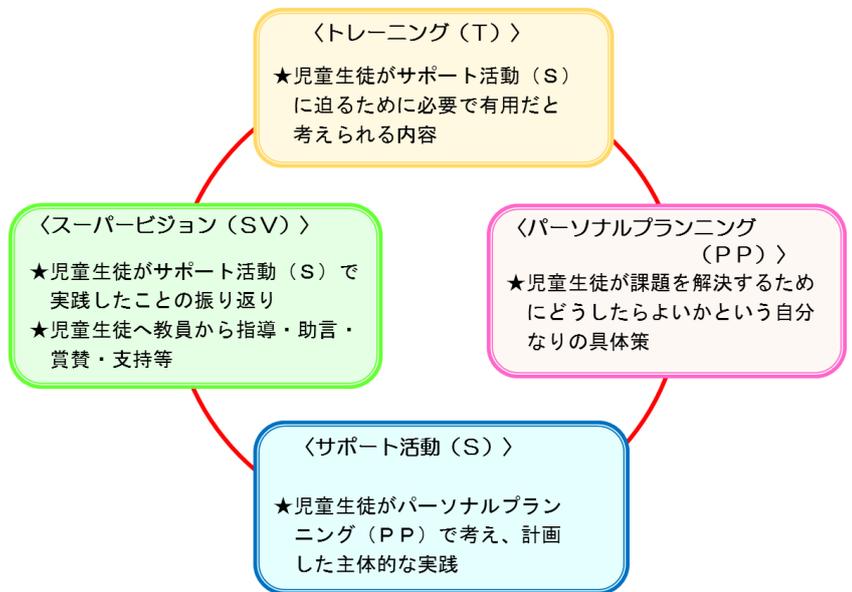
ング (PP)」→「サポート活動 (S)」→「スーパービジョン (SV)」の諸要素 (図表3) を持った円環的過程の取組となるような実践を行うのである。この「ピア・サポート活動」モデルの教員の事前準備 (「アセスメント」、「トレーニングの計画」) から児童生徒の円環的過程のサイクルを「ピア・サポート活動」の一単位とし、この円環的過程をまずきちんと一周りさせ、そこから見えた次の課題の解決を図る取組を次々に行うことにより「ピア・サポート活動」をスパイラルに発展させることで、「学び」の基盤をなす「学校風土の醸成」を図るのである (図表4)。

なお、図表1で示すように児童生徒が実際に活動する「トレーニング (T)」「パーソナルプランニング (PP)」「サポート活動 (S)」「スーパービジョン (SV)」それぞれの実施時に、教員が留意すべき事柄を認識していることも重要なこととなる。また、「どこの場面で、何をさせたいのか」という「サポート活動 (S)」の目指す方向性を教員がしっかりと見据えていることは言うまでもない (図表5)。

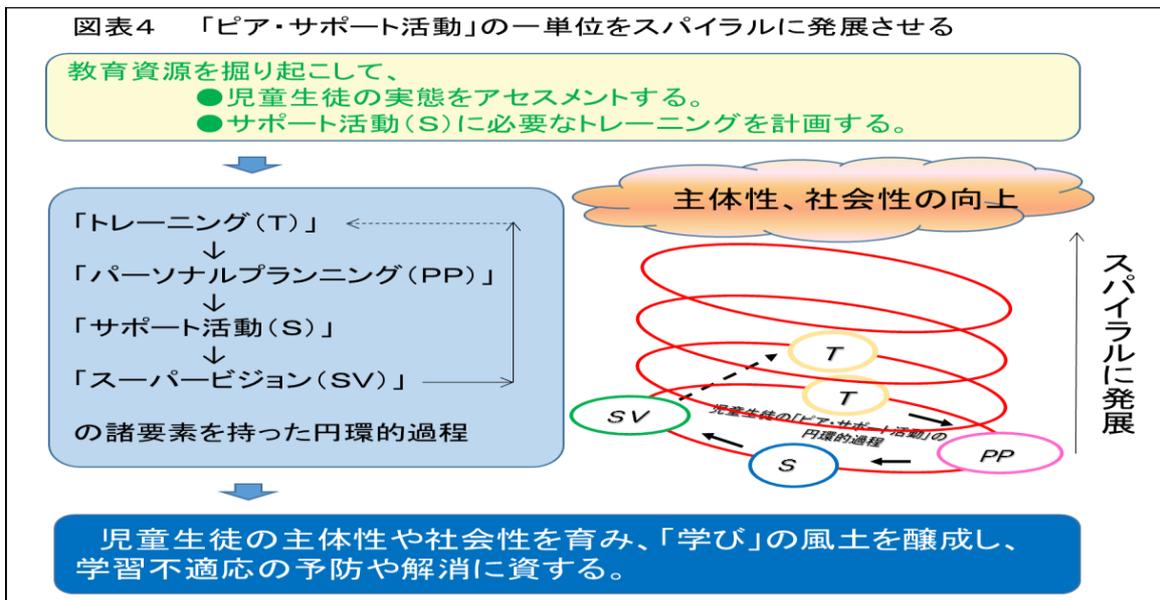
図表1 児童生徒の「ピア・サポート活動」の円環的過程 (再掲)



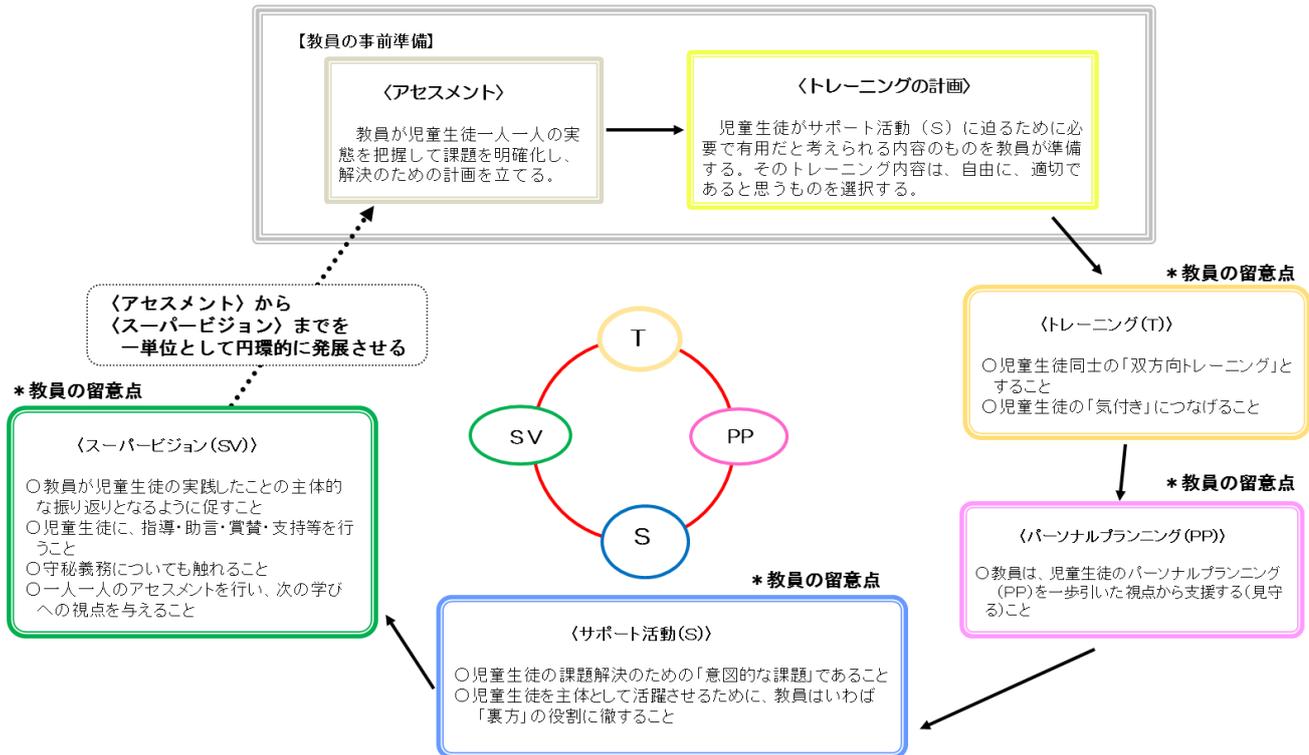
図表3 児童生徒の「ピア・サポート活動」の諸要素



図表4 「ピア・サポート活動」の一単位をスパイラルに発展させる



図表5 「ピア・サポート活動」の円環的過程における教員の事前準備、留意点等



このように捉えると、「ピア・サポート活動」は、単純に「一部の、又は特別な児童生徒だけ特別に指導する」ということでもなければ、散発的に「仲間同士で助け合う活動」をすることだけではないということがわかる。つまり、児童生徒が自分たちの課題を理解し、その課題を解決するための「サポート活動（S）」に迫るために必要で有用だと考えられる「トレーニング（T）」を受け、自分なりの具体策として「パーソナルプランニング（PP）」を考え、主体的な「サポート活動（S）」を行い、「スーパービジョン（SV）」で実践の振り返りと教員からの指導・助言・賞賛・支持等を受ける、ということである。

この「ピア・サポート活動」によって児童生徒の「互いに思いやり、助け合い、支え合う人間関係（社会的スキル）」を育て、児童生徒が「主体的、意欲的に活動する力」を高め、学習不適應の解消を図るのである。

ピア・サポート活動→互いに思いやり、助け合い、支え合う人間関係（社会的スキル）  
 →主体的、意欲的に活動する力→学習不適應の解消

### ③ 「ピア・サポートマネジメント」

以上のことから、本研究は、「ピア・サポート活動」理論と「ピア・サポート体験過程におけるマネジメント」を整理した結果、「ピア・サポートマネジメント」を次のように定義する。

#### 「ピア・サポートマネジメント」

教員それぞれが持つ教育資源を掘り起こして、自らの実践を「ピア・サポート活動」の円環的過程を意識して整理し（マネジメントし）、授業をデザインしていくこと。

なお、ライフスキル教育など、すでに別種の教育活動として「名付けられている」ものがあるが、「ピア・サポート活動」実践のモデルを通してライフスキル教育に取り組む教員が、ピア・「サポート活動」の視点を持ち、なおかつ、ライフスキル教育にもプラスαの効果もあるということが研究を進める中で分かってきた。

ここで、「ピア・サポートマネジメント」の留意点を再度整理すると、

- ①今ある「教育資源」を掘り起す
- ②児童生徒の「共通体験」を図る
- ③自らの実践を「円環的過程」に当てはめてみる
- ④「サイクル」から「スパイラル」へつなげる
- ⑤「アセスメント」とそれに基づく「スパイラル」への発展を図る

の5点に集約される。この5つの留意点を踏まえて、目の前の児童生徒の学びの実態に着目した授業のデザインを行うのである。この中で、学びの過程におけるアセスメントの重要性、児童生徒の主体性を育むトレーニングの重要性を知ることができるであろう。なお、実践にあたって、「児童生徒が共通して体験する」モデルとなるように配慮するとともに、児童生徒同士が学び合うコミュニティ（学校全体）でサポート活動を行っていることが、校内の全教員に共通理解されていることが望ましい。

なお、本研究では、以上のようなことを具体的に実践報告の中で検証した。次章において実践の一部をモデル資料として示すこととする。

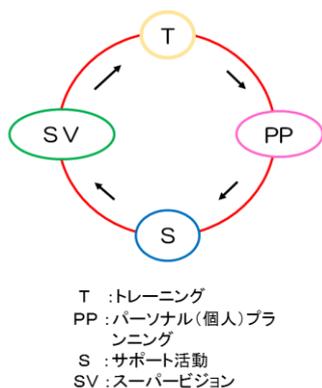
( \* 1 ) 懸川武史「ピア・サポートモデルによる学校マネジメントの実践」( 2 0 0 9 群馬大学教育実践研究第 2 6 号 ) 「 II ダンカン市におけるピア・サポート」

## 4 実践の概要について

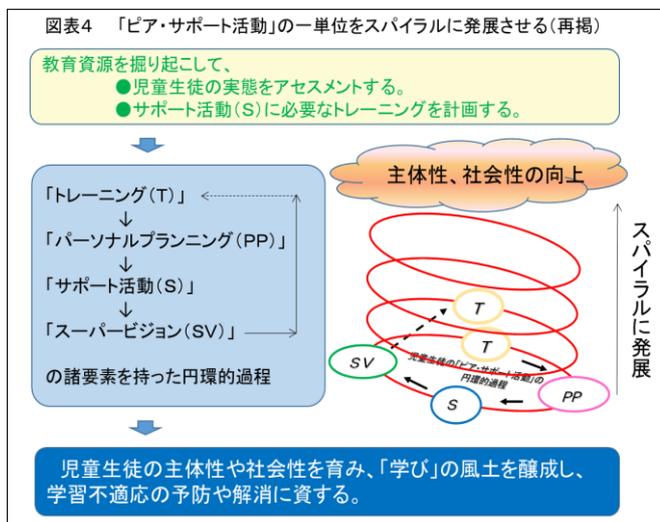
第4章では、研究協力委員が校内の教育課題解決に向けて取り組んだものを通して、児童生徒の「ピア・サポート活動」の円環的過程をスパイラルに描き、実施の際の教員の事前準備、留意点等を示す。

- (1) 実践例1・・・小学校「特別活動」（保健委員会の活発な活動）
- (2) 実践例2・・・中学校「総合的な学習の時間」（ライフスキル学習の全校的な取組）
- (3) 実践例3・・・高等学校「特別活動」（生徒主体の生徒会活動）
- (4) 実践例4・・・小学校「生活科」（家庭生活の中で自分のできること）

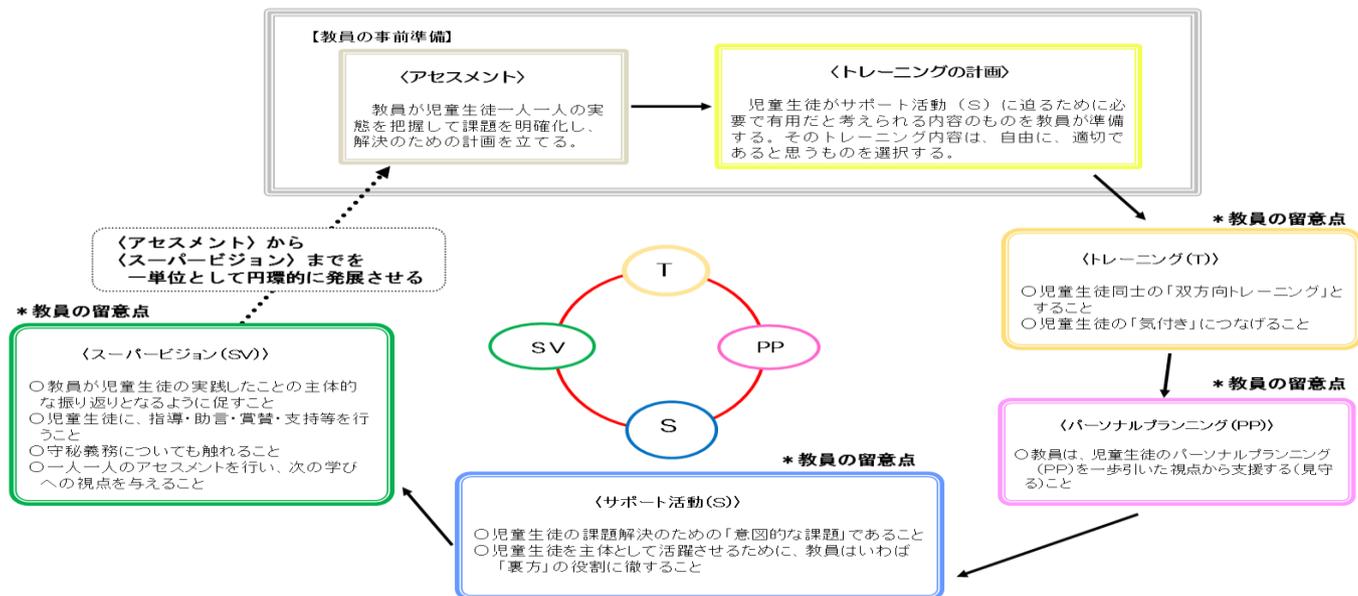
図表1 児童生徒の「ピア・サポート活動」の円環的過程（再掲）



図表4 「ピア・サポート活動」の一単位をスパイラルに発展させる(再掲)



図表5 「ピア・サポート活動」の円環的過程における教員の事前準備、留意点等（再掲）



(1) 実践例1・・・小学校「特別活動」(保健委員会の活発な活動)

ア 実践をスパイラルに描く

1 巡目

〈トレーニング (T)〉

- 1 日目
  - ・オリエンテーション
  - ・「心を開いて」(自己理解)
- 2 日目
  - ・「うまく話が伝わるかな」「あたたかい言葉がけ」(聞き方・伝え方)

〈パーソナルプランニング (PP)〉

- 2 日目
  - ・相手が喜んでくれるようにやさしく接する。
  - ・当番の日を忘れない。
  - ・優しく聞いてあげる。
  - ・言葉遣いに気をつける。
  - ・人それぞれにあった対応をする。

〈サポート活動 (S)〉

- 2 日目「保健室当番」
  - ・相談を聞いて自分なりのアドバイスをする。
  - ・優しく声をかけながら教室まで送る。
  - ・自分のよく知らない児童にも声をかける。
  - ・傷口を洗うのを手伝う。

〈スーパービジョン (SV)〉

- 3 日目
  - ・トレーニングをゲーム感覚で楽しく活動できたが、内容によっては恥ずかしくて、何を言えばよいのか言葉がでなかった。【課題】
  - ・サポート活動の内容に個人差があり、「何を聞くの?」「どうすればいいですか?」と先生を頼らないと行動に移せないこともあった。【課題】

※「聞き方のトレーニング」を実施することとした。

\*サポート活動の分類

カテゴリー	主なサポート活動(S)	支援対象:ピア
仲間作り	だれもが学校や学級に居場所を持てるようにサポートすること	全校生徒

2 巡目

〈トレーニング (T)〉

- 3 日目
  - ・「質問しよう」(質問の仕方)

〈パーソナルプランニング (PP)〉

- 3 日目
  - ・1年生は初めてのなので怖がらないように気を付ける。
  - ・進んで行動できるようにする。
  - ・やり方を詳しく丁寧に説明する。

〈サポート活動 (S)〉

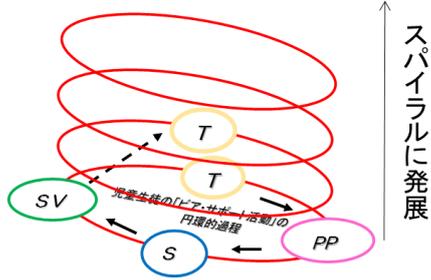
- 3 日目「歯磨きテスト&歯磨き指導」
  - ・一緒に手をもって歯を磨いてあげる。
  - ・準備の遅い子の手伝いをする。

〈スーパービジョン (SV)〉

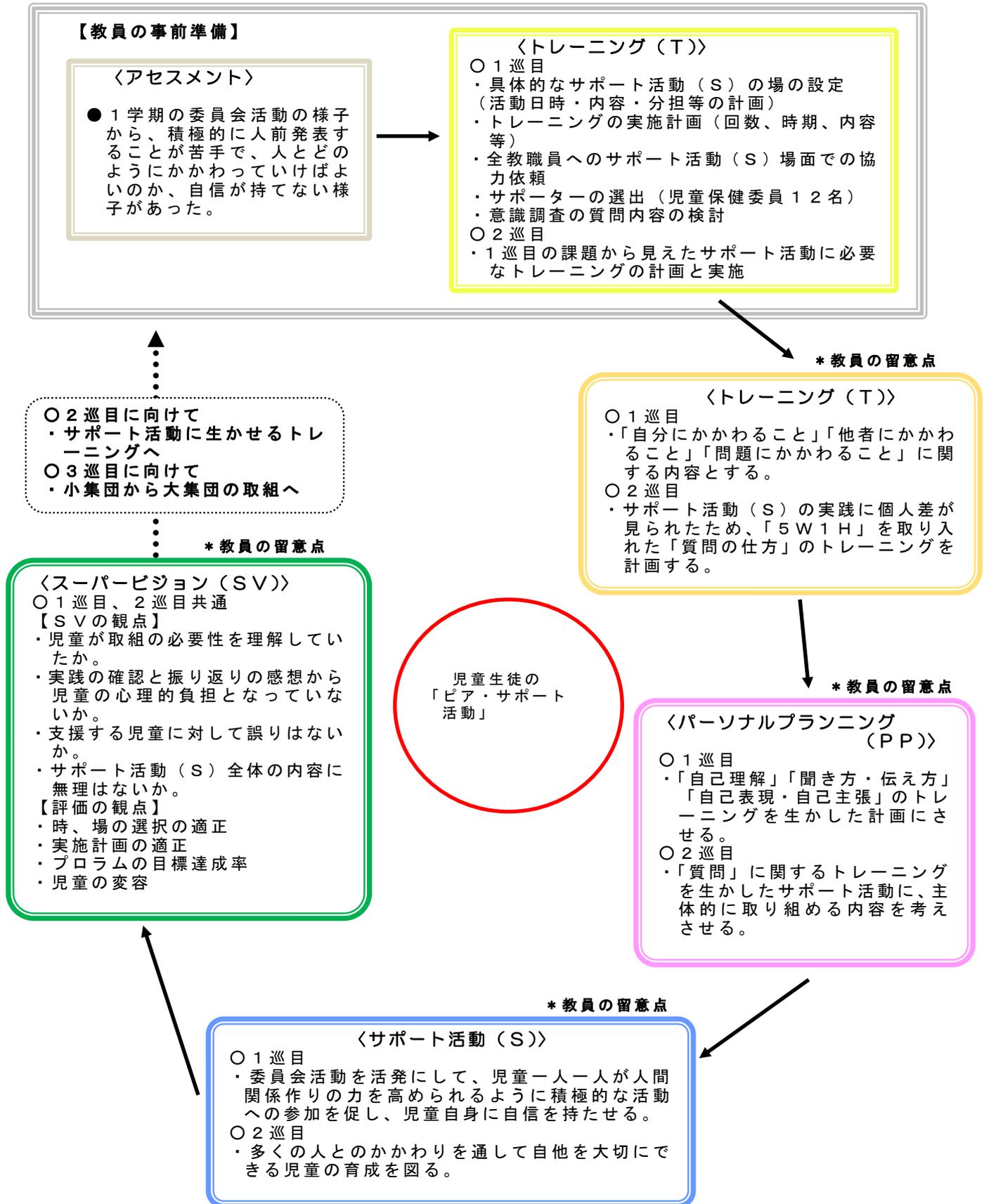
- 4 日目
  - ・歯磨きのサポート活動では、困っている子を見つけたり、気付いてあげることが感じ取れない。【課題】

3 巡目へ

『今後の課題』  
保健委員会という小集団の活動から  
学級、学校という大きな集団の活動へ



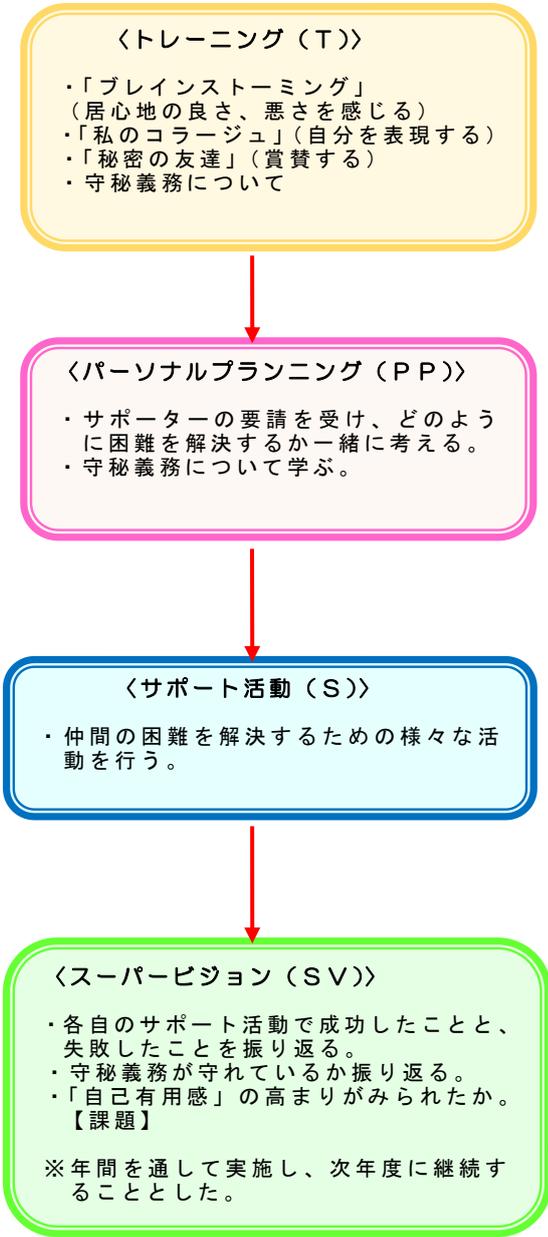
## イ 教員の事前準備、留意点等



(2) 実践例2・・・中学校「総合的な学習の時間」（ライフスキル学習の全校的な取組）

ア 実践をスパイラルに描く

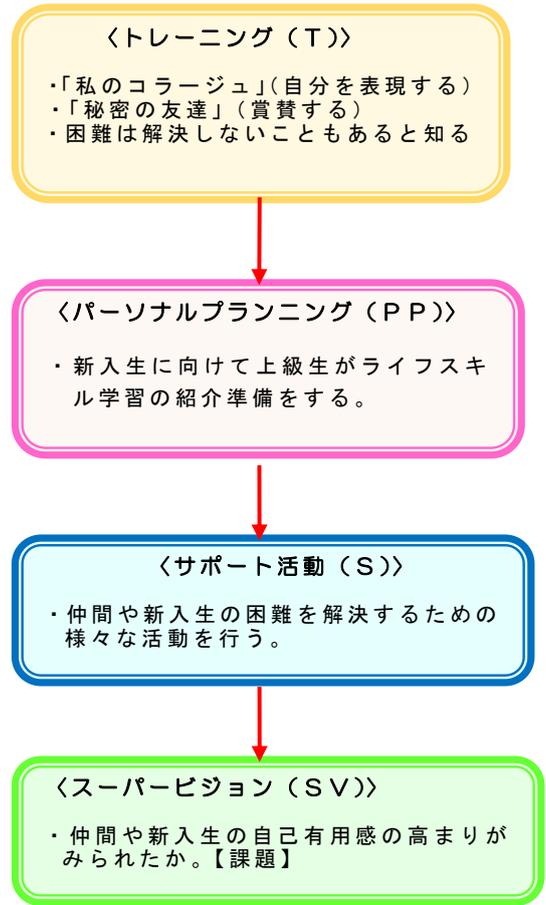
1 巡目



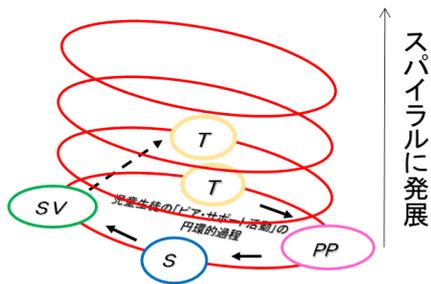
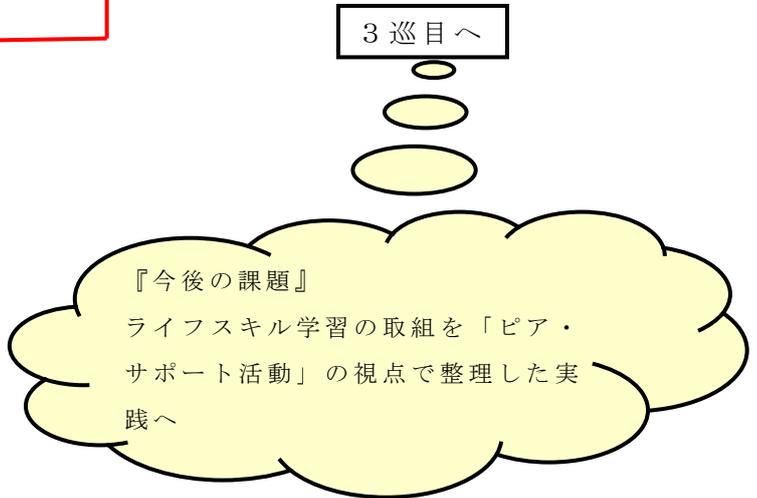
\*サポート活動の分類

カテゴリー	主なサポート活動(S)	支援対象:ピア
仲間づくり	誰もが学校や学級に居場所を持つるようにサポートすること	全校生徒

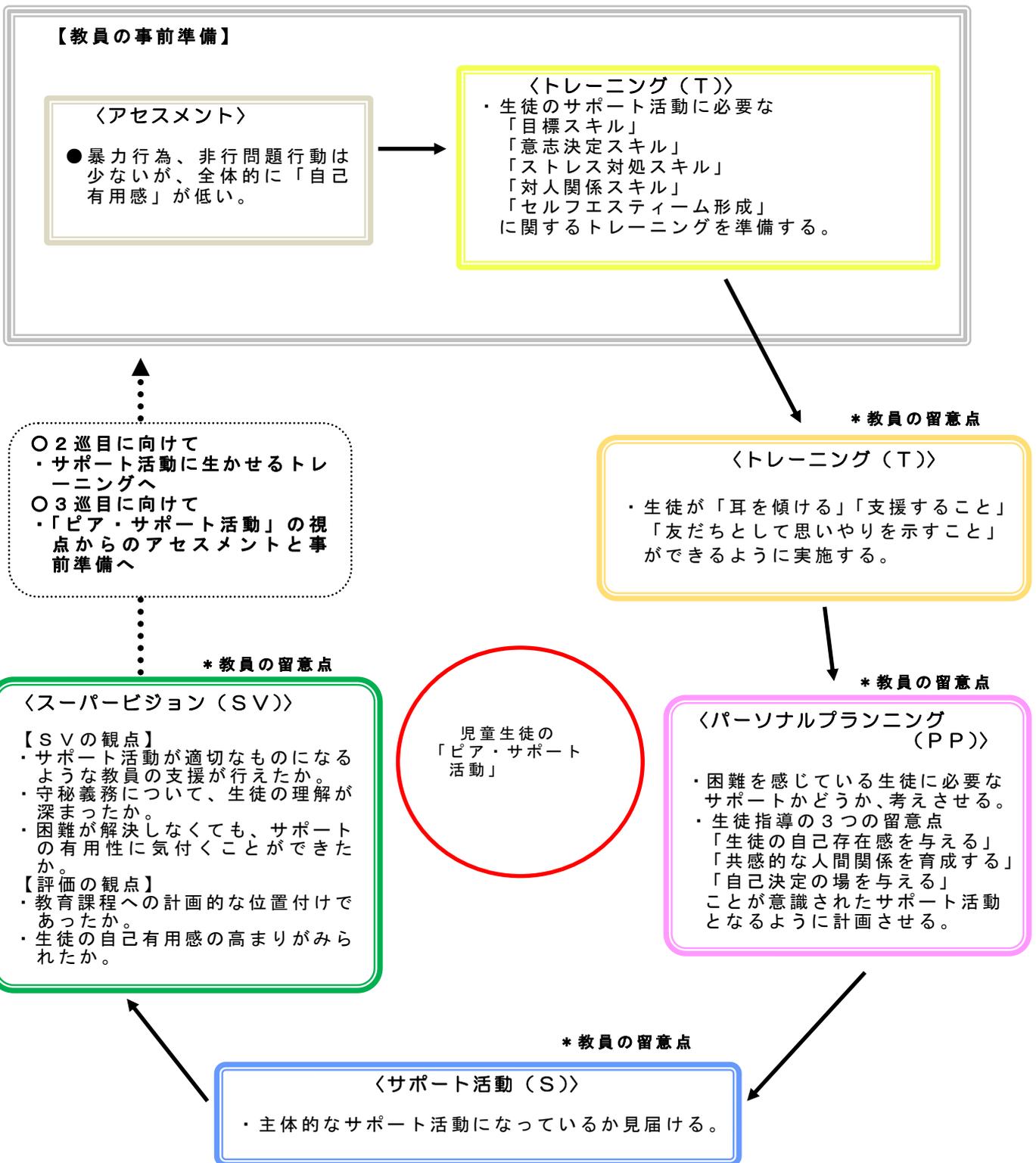
2 巡目



3 巡目へ

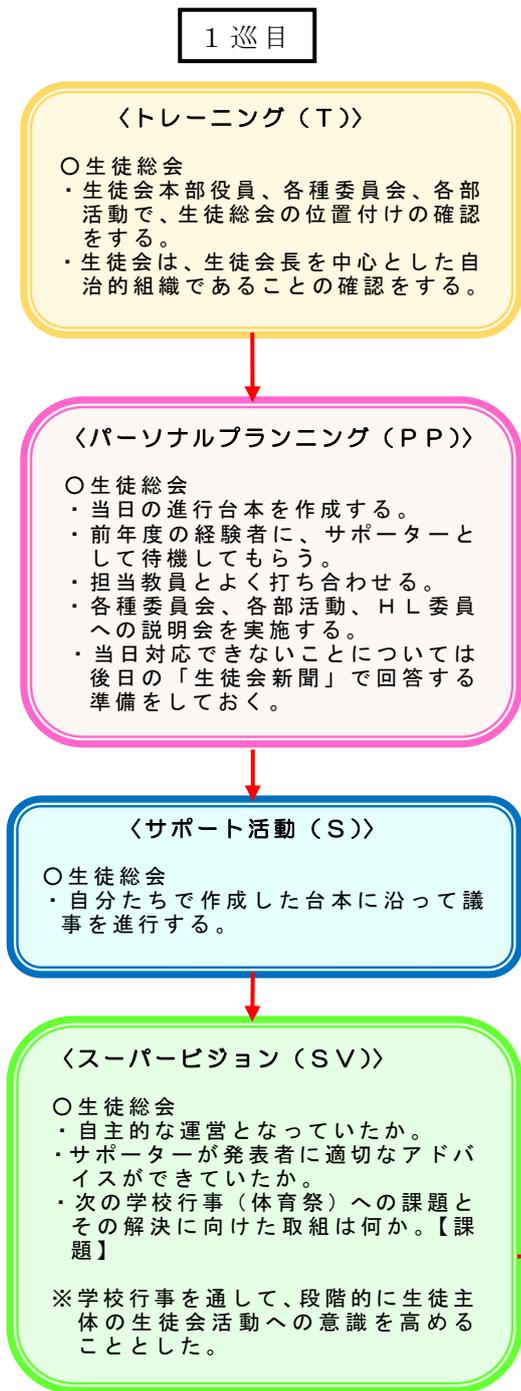


## イ 教員の事前準備、留意点等



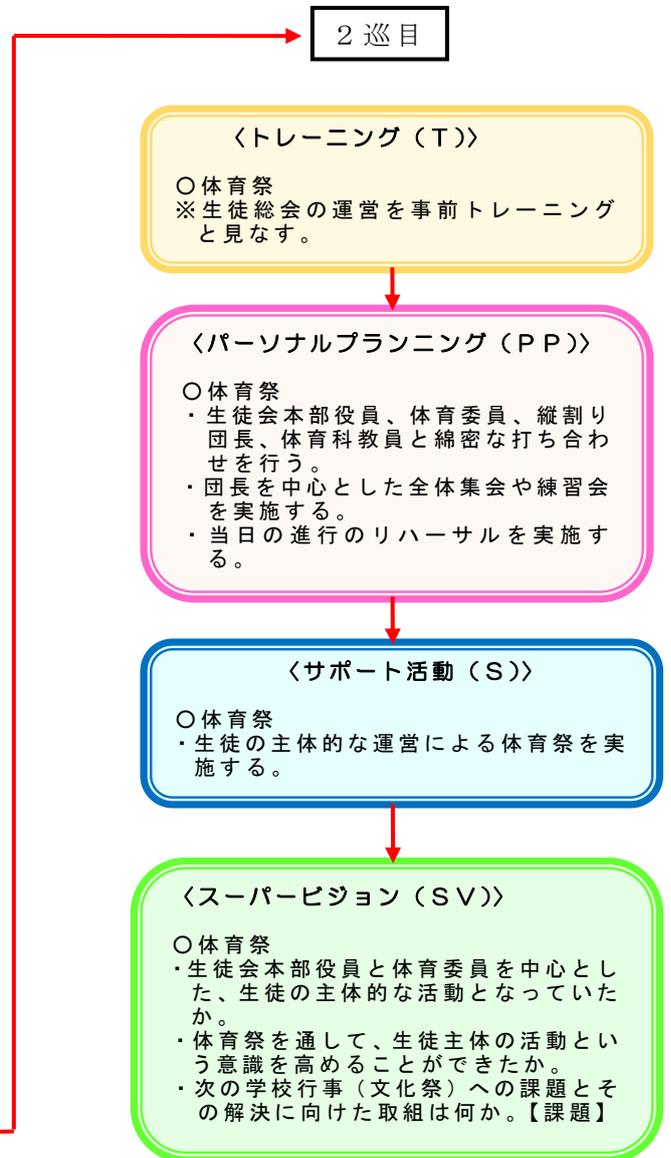
(3) 実践例3・・・高等学校「特別活動」(生徒主体の生徒会活動)

ア 実践をスパイラルに描く

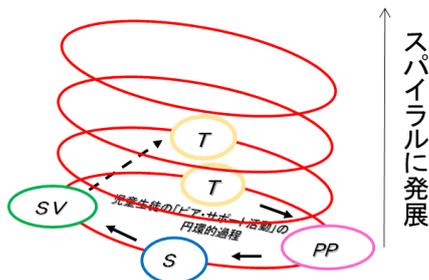


\*サポート活動の分類

カテゴリ	主なサポート活動(S)	支援対象:ピア
お世話活動	学校行事を円滑に進めるためのサポート活動	全校生徒

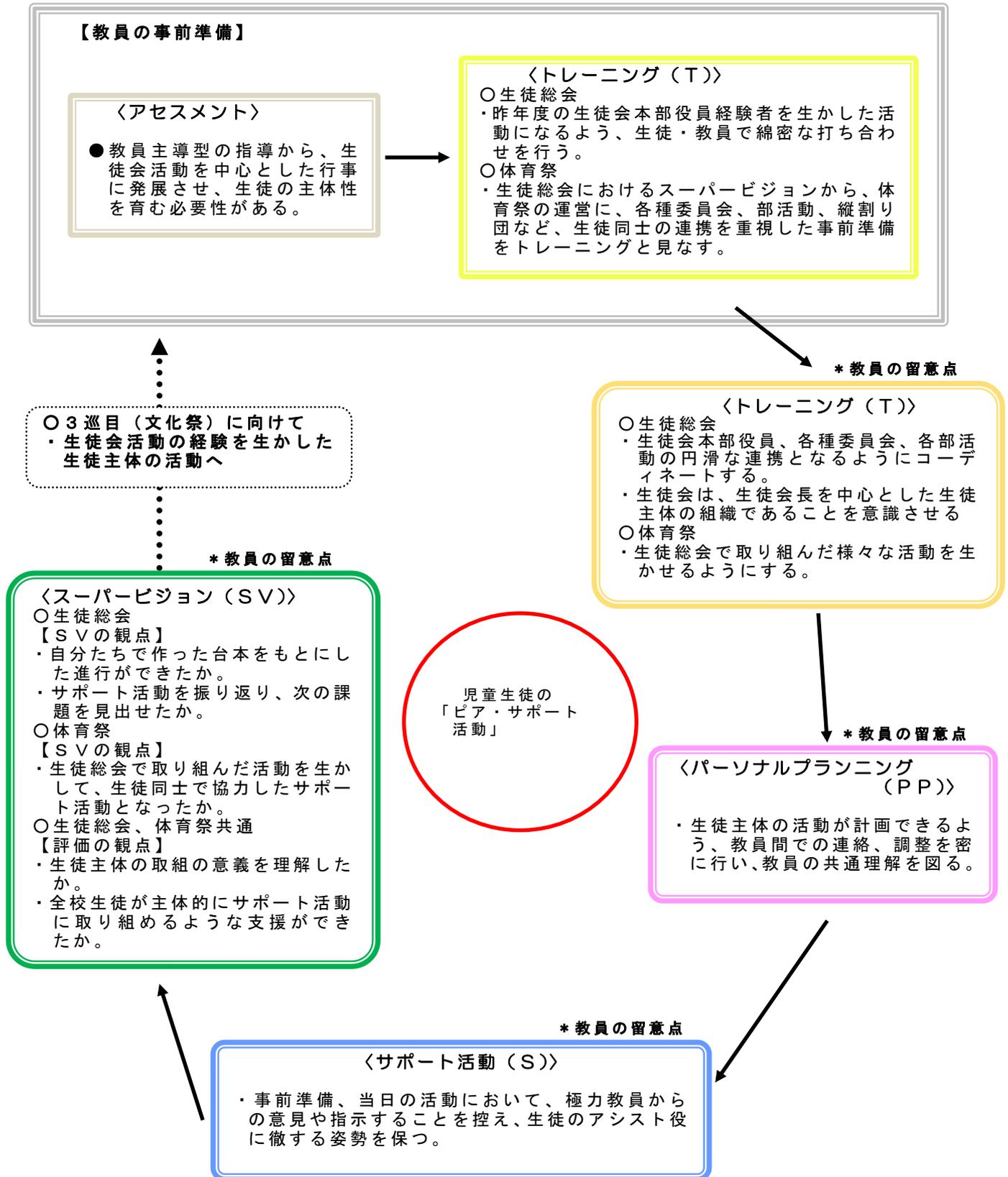


3 巡目 (文化祭) へ



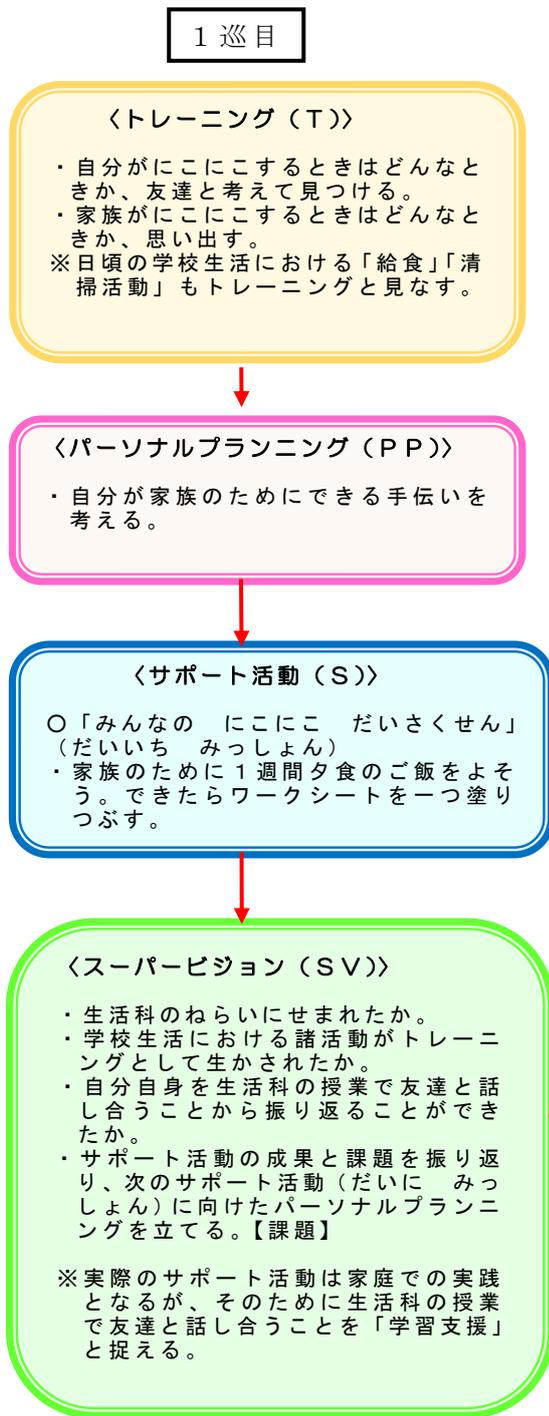
『今後の課題』  
 主体的な生徒会活動から、日常の諸活動における生徒主体の取組へ

## イ 教員の事前準備、留意点等



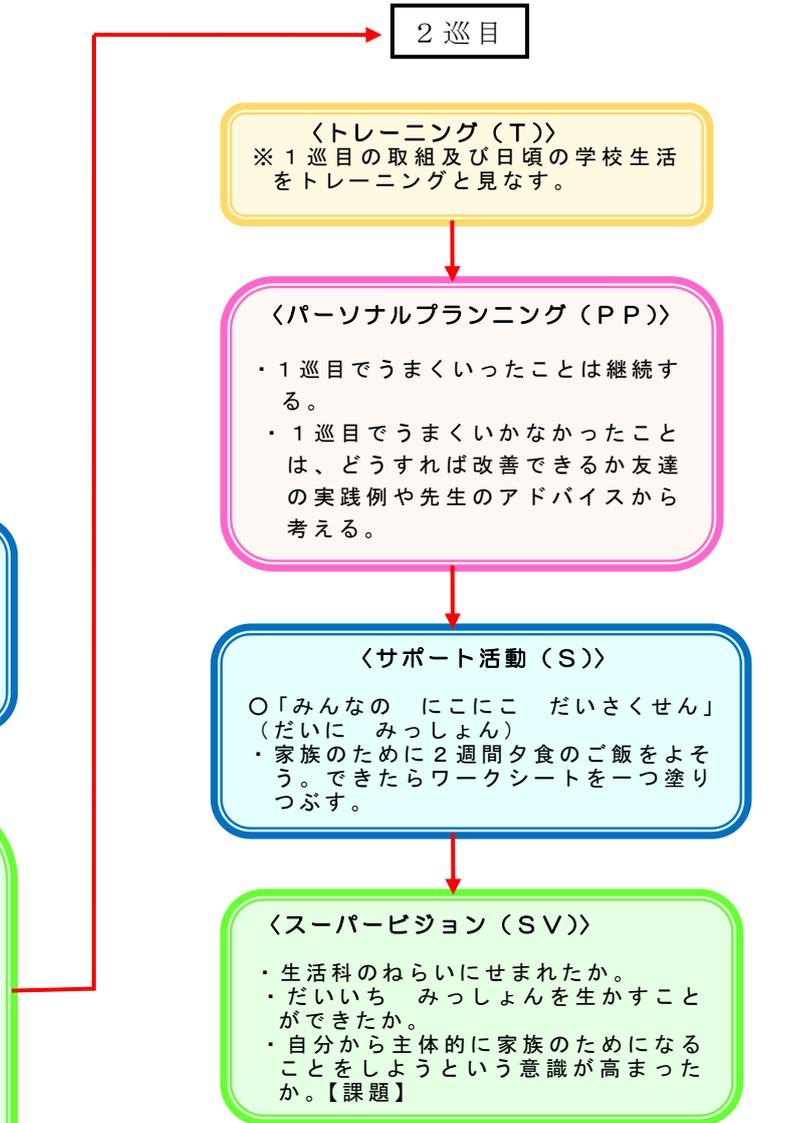
(4) 実践例4・・・小学校「生活科」(家庭生活の中で自分のできること)

ア 実践をスパイラルに描く



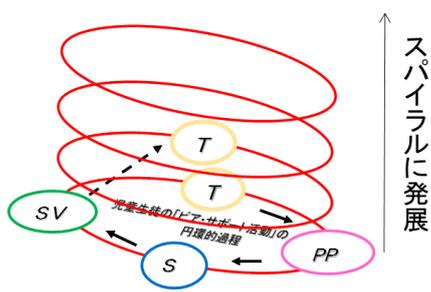
\*サポート活動の分類

カテゴリー	主なサポート活動(S)	支援対象:ピア
学習支援	仲間同士での教え合い、学び合い	主に同級生

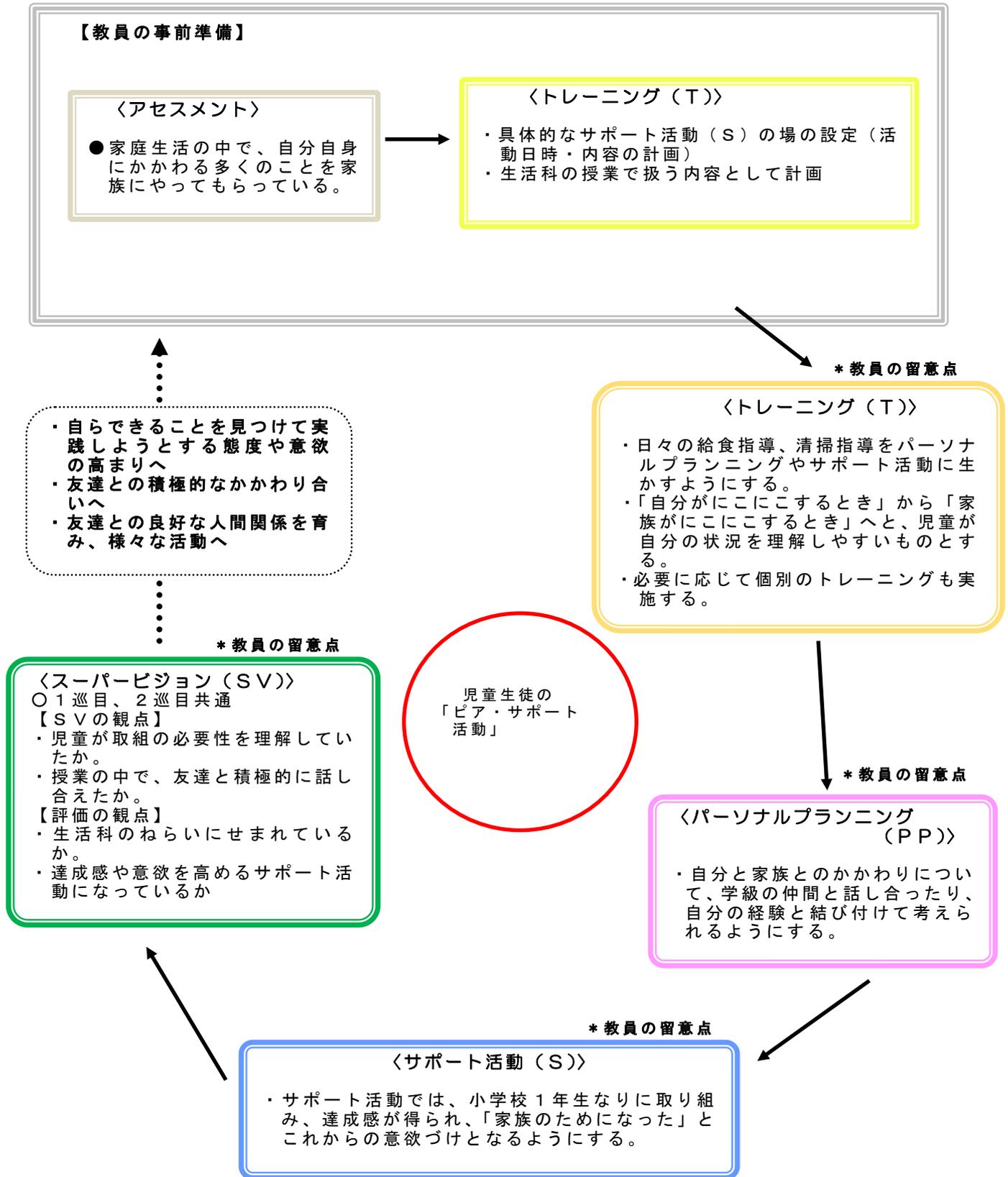


3 巡目へ

『今後の課題』  
主体的に学級の仲間とかかわる活動へ



イ 教員の事前準備、留意点等



## 5 研究の成果と今後の課題

研究1年目である本年度は、学びを深める「ピア・サポート活動」について定義付けを行い、指導用プログラムへの発展を図るために、委員による教育実践とピア・サポート理論に基づく分析を研究の中心に置き、実践をより明確化する教育モデルの提案を行った。

研究を開始するに当たり、新しく特別に何かに取り組むというより、学習の基盤そのものを整えるという方向性を明確化し、生徒指導提要、ピア・サポートの先行研究・実践などを参考に、本研究の柱となる「ピア・サポート活動の指導用プログラム」に関する理論と「生徒指導・教育相談を授業に生かす」方向性を確定することもできた。また、小学校、中学校、高等学校の各校種における課題なども把握することができたことなどは、本研究の成果と言える。

今後の課題としては、実践において『学校マネジメントの観点から教育課程の中にどのように位置付けていくかということ』という課題が挙げられる。また、一年目の実践は特別活動、小学校生活科を中心とした「ピア・サポート活動」が導入しやすい活動として中心に据えたが、より広い意味での「学び」に資するという意味で、各教科においても応用できる指導用プログラムの作成も必要であると考えている。さらに、学習指導要領や埼玉県教育委員会の各施策など、様々な取組との関連性についても考慮していく必要がある。

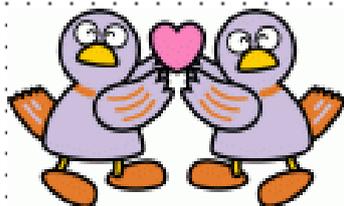
## 6 参考・引用文献等

- 「生徒指導提要」  
（平成22年3月 文部科学省）
- 中野武房他編著（企画 日本ピア・サポート学会）  
「ピア・サポート実践ガイドブック Q&Aによるピア・サポートプログラムのすべて」  
（平成20年4月 ほんの森出版）
- 懸川武史  
「児童生徒と教師が互いに成長できる学習モデルの構築Ⅰ」  
（平成14年度（2002年度） 群馬県総合教育センター紀要）  
「ピア・サポートモデルによる学校マネジメントの実践」  
（平成21年度 群馬大学教育実践研究別冊26号）
- 小林澄子・懸川武史  
「ピア・サポート・プログラムの総合的な学習の時間への位置づけと導入モデルの構築—生徒の対人関係能力の向上を目指して—」  
（平成14年度（2002年度） 群馬県総合教育センター紀要）
- 安永悟  
「活動性を高める授業づくり 協同学習のすすめ」（平成24年2月 医学書院）

## 7 研究協力委員等

	所 属	職 名	氏 名
スーパーバイザー	群馬大学大学院	教 授	懸川 武史
委 員 長	所沢市立狭山ヶ丘中学校	校 長	岩間 健一
副委員長	皆野町立皆野小学校	養護教諭	栗原貴美代
副委員長	県立蓮田松韻高等学校	教 諭	馬橋 秀明
委 員	川口市立戸塚南小学校	教 諭	井出 祐史
委 員	蕨市立第一中学校	教 諭	大島 綾子
委 員	三芳町立藤久保中学校	教 諭	石原 健
委 員	県立大宮南高等学校	教 諭	野口 美和
委 員	県教育局県立学校部生徒指導課	指導主事	加藤 秀樹
協 力 者	三郷市立高州東小学校	教 諭 (生徒指導担当研修教員)	高橋 史行
協 力 者	上尾市立富士見小学校	教 諭 (生徒指導担当研修教員)	中野 直之
事 務 局	県立総合教育センター指導相談担当	指導主事	新井 恵
事 務 局	県立総合教育センター指導相談担当	指導主事	高井多美子
事 務 局	県立総合教育センター指導相談担当	指導主事	駒宮恵美子
事 務 局	県立総合教育センター指導相談担当	指導主事	上岡 勝
事 務 局	県立総合教育センター指導相談担当	指導主事	小宮 高弘





埼玉県のマスコット <コバトン>